八王子市教育委員会 殿

学校名 八王子市立由井第三小学校
校長名 筒井 泰行 公印

令和7年度教育課程について（届）

このことについて、八王子市立学校の管理運営に関する規則により、学校教育法施行規則第138条の規定に基づく特別支援学級（知的障害）の教育課程を下記のとおりお届けします。

記

1 教育目標

(1) 学校の教育目標

- ◎人と自然が共生できる力を培う。 [ともになかよく (徳)]
- 生涯学び続ける力と態度を養う。 [たのしく学ぶ (知)]
- 共に学び合い磨き合える、強い体力と気力を育てる。 [元気な子 (体)]

(2) 特別支援学級の教育目標

社会の一員としての自立に向けて、児童一人ひとりの実態に応じて、基本的な生活習慣や基礎的な学力を身に付けさせ、自分をより良く伸ばそうとする、心身共に健康な児童の育成をめざす。

- ◎友だちを思いやり、仲良くする心情・態度を養う。（令和7年度の重点目標）
- 生活に必要な基礎的な学力を身に付けさせるとともに、基礎体力の備わった健康な体をつくる。
- 毎日の生活や様々な体験を通して、基本的な生活習慣を身に付けさせる。

(3) 学校の教育目標を達成するための基本方針

ア 豊かな心の育成

- ①挨拶・適切な言葉遣い・礼儀を定着させるとともに、規範意識の向上を図り、望ましい人間関係の構築を図る。
- ②夢大地（地域人材・素材を活用した学習）の取り組みとして、学校・家庭・地域の三者で協働した自然観察・農業体験・地域伝統芸能習得活動を、本校の特色ある教育活動と位置付け、社会に開かれた教育課程を実践する。

イ 確かな学力の育成

- ①授業の構造化（環境や活動の視覚化等）を図り、全ての児童に分かる楽しい授業を展開するとともに、学習用端末を活用して、多様な児童の学びを支える。
- ②児童の課題に沿って個別指導計画を作成し、個に応じた学習を行う。

ウ 健やかな体の育成

- ①基本的な生活習慣と生活リズムの確立を図る。
- ②生涯にわたって運動に親しむ習慣を身に付けさせる。

エ 不登校児童への適切な対応

- ①学校の中に児童が安心して過ごせる居場所を確保するとともに、児童一人ひとりの支援ニーズに応じて、外部機関を含めた様々な支援を継続的に行える仕組みを構築する。

オ いじめ総合対策を踏まえ、いじめの防止等の取組を効果的に実行するための方針

- ①いじめや暴力は絶対に許さないという心情を育てるとともに、問題意識を高め、自他の生命や心情を大切にす行動がとれる児童を育成する。

カ 八王子市第五次特別支援教育推進計画に基づき、基本的な生活習慣や基礎・基本の学習の定着を図るために、学校生活支援シート、個別指導計画に基づいた指導を進める。

- ①八王子市第五次特別支援教育推進計画に基づき、児童の将来を見据え、児童一人ひとりの発達段階や特性、保護者の願いを基に学校生活支援シート、個別指導計画を作成して、個に応じた指導や小集団指導を充実させ、教材・教具を工夫し指導法の改善を図る。
- ②学校生活の様々な場面を通して、身の回りのことを自分でできるように、学級担任が家庭、指導補助員、学校サポーター、講師等とも連携し、指導する。このことにより、基本的な生活習慣の確立を図る。

キ 小中一貫教育のさらなる充実【由井中学校グループ（由井第二小・由井第三小・片倉台小）】

- ①共通目標「自分で考え判断し行動できる・社会に貢献できる・夢をもって挑戦できる児童・生徒」の育成のために、あいさつ運動週間の設定、学力定着プロジェクトチームの取組、児童・生徒に関する諸情報を共通理解していくための取組、地域と合同で行う活動を4校で推進する。

2 指導の重点

(1) 各教科等

ア 各教科（外国語活動を含む）

- ①一人ひとりの発達段階に合わせた教材を準備し、能力・個性に応じたきめ細かい指導を行うことにより、児童が意欲的に学習する態度を育てる。授業改善に日々取り組み、視覚化した分かりやすい教材を用いて学習をすすめることにより、自分や友だちの意見を共有することで、主体的・対話的で深い学びの実現をめざす。
- ②ことば、文字、数などの指導を通して、生活に必要な基礎的な学力を身に付けさせ、チームティーチング、実態に応じたグループ編成、課題別の指導等により障害の重度重複化に応じた指導を図る。
- ③多様な学び方を支えるために、体験と知識の融合を図ったり、学習課題の共有化や学習活動の焦点化、学習課題に対する思考を視覚化したりして、1人1台の学習用端末やICT機器の特性を活かした授業を行う。
- ④体験的な学習活動を充実させ、基本的な力が定着していくようにしていく。第1学年との交流会では、自己紹介やゲームでの交流、第3学年との交流会では、障害理解やボッチャ体験などを行う。外国語活動では、外国語指導補助手（ALT）との連携を図りながら、英語を用いた積極的なコミュニケーションの態度を育て、初歩的な英語の能力を養う。

イ 総合的な学習の時間

- ①夢大地の取組（地域人材・地域資源・素材を活用した学習）を通し、自己の生き方についても考えることができるよう教科等の横断的や探究活動も取り入れる。自然観察・農業体験・地域伝統芸能習得活動などの郷土学習を行う。自分たちが生活している地域の良さを実感させ、郷土に対する興味関心を高め、愛着を深め、地域の一員としてのアイデンティティ（他者や社会から認められているという感覚）を養うことができるように単元構成の工夫を行う。

ウ 特別活動

- ①学級活動での話合いや児童会活動を通して、児童が自他を尊重し合う心を培うとともに、より良い生活習慣を形成し、楽しい学級・学校生活が送れるようにする。
- ②たてわり班活動を通して、他学年の児童と仲良く協力し、下学年は他学年に対する感謝の気持ちを養い、上学年は思いやりの心や高学年としての自覚と意識を高める。学級活動での話合いや児童会活動を通して、児童が自他を尊重し合う心を培うとともに、より良い生活習慣を形成し、楽しい学級・学校生活が送れるようにする。
- ③児童が学校行事を通して、集団の中で児童が協力して活動していく喜びや達成感を味わうことができるよう、工夫した活動計画を立てる。より良い人間関係の形成や自己実現に向けた意欲的な取り組みができるよう、活動内容を精選する。
- ④集団宿泊的行事について、宿泊場所や訪問場所の地理・歴史・自然について調査学習を事前に行う。当日にはその学習内容を現地で確かめる学習をすすめ、行事後には校内で発表会を行う。児童が集団宿泊的行事を通して自主的・実践的に取り組んでいく学習過程を推進し、将来、社会へ参画する意欲を養う。

エ 自立活動

- ①言葉によるコミュニケーションの能力を育て、意思の相互伝達に必要な基本的な能力を身に付けさせ、良好な人間関係を形成する力を育む。
- ②図画工作科や作業的な学習を通して、集中力や手指の巧緻性を高め、作業が安全にできる力を養う。
- ③生活単元学習や日常生活の指導に絡めて、生活のリズムや生活習慣の形成に留意する指導を行い、児童の良好な健康状態、心身状態の維持・改善に努める。

(2) 「特別の教科 道徳」を要とする道徳教育

- ①教育活動全体を通じた道徳教育の中で、「親切、思いやり」「相互理解、寛容」「生命の大切さ」を重点目標として指導し、人権尊重に対する意識を高める。また、SNSの使い方について「由井三小SNSルール」を周知徹底することを通して、情報モラルの意識を高める。
- ②道徳授業地区公開講座の開催や、毎月1回設定したところの日の授業実践を通して道徳的価値の自覚を深めるとともに、実践についての情報を発言し、家庭・地域と連携を行うことで、道徳実践力を育成する。

(3) キャリア教育

- ①「はちおうじっ子キャリア・パスポート」を活用する。学校行事に取り組む前後や毎学期末に活用することで、自己の変容に気付かせ、前向きに学校生活を進めていこうとする意識を高める。めあてをもって取り組むことや、継続して取り組むことの価値を感じさせる。また、学校と家庭の連携や次学年への引継ぎ、進級・進学に向けて有効に活用していく。

(4) 生活指導

ア 生活指導

- ①「由井三小のきまり」を児童に4月に周知し、規則正しい学校生活を送れるようにする。特に廊下を歩く・始業時刻を守るについては指導を徹底する。きまりは毎年見直しを行い、改善していく。
- ②日常生活の中で、事故、災害、犯罪に巻き込まれないために、セーフティ教室の実施や避難訓練及び安全指導を通して、児童が主体的に自他の安全を守る態度を育成する。
- ③児童が性犯罪・性暴力の加害者、被害者、傍観者にならないよう、全学年で発達段階に応じて安全教育の資料「生命(いのち)の安全教育」指導の手引きを参考に指導を行う。また全児童に対し、学期に1回、相談先や相談方法について周知する。

イ いじめ防止等の取組

- ①学校いじめ対策委員会を毎週金曜日に実施する。「いじめ対応フローチャート」に沿っていじめの早期発見に努め、組織的に早期対応する。
- ②いじめの実態把握について、アンケートやQ-U、子ども見守りシートを活用すると同時に、教職員一人ひとりが「いじめを絶対に見逃さない」という強い意識をもって対応する。
- ③「八王子市いのちの大切さを共に考える日」を6月に設定し、各学級にていのちに関する授業を行い、実践内容をホームページにて保護者や地域に周知する。

ウ 不登校児童への支援等

- ①登校支援コーディネーターが中心となり、個票システムを活用し不登校の傾向をいち早く把握し対応する。スクールソーシャルワーカーと連携し、オンラインで直接コミュニケーションをとるなど、迅速なアプローチを行う。
- ②担任とスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携を推進し、登校しやすい環境（保健室等）の整備をする。児童・保護者と密な連絡を取り、支援ニーズを把握し、児童が安心して学校生活を送れるような関係づくりをすすめる。

(5) 特色ある教育活動・その他の配慮事項

ア 通常の学級、関係機関との交流

- ①交流及び共同学習で通常の学級の児童と共に活動することを通して、集団生活に参加する喜びや社会性をもたせる。たてわり班活動を通して他学年の児童と仲良く協力しようとする態度を育てる。
- ②一人ひとりの障害の状態や発達段階を的確に捉え、学校生活支援シート、個別指導計画に基づき学校の教育活動全体を通して適切に指導するとともに、連絡帳のやり取りや個人面談を通して家庭との連携を図る。
- ③近隣校の特別支援学級への訪問学習を通して、他校の友だちとの交流を深め、社会性の伸長を図る。

イ 義務教育9年間を見通した小中一貫教育の取組

「グループとしての共通目標」を具現化するための具体的な取組

- (取組1) 挨拶運動週間に一定期間一斉に取り組み、地域社会にあいさつを根付かせ、連帯を深める。
- (取組2) グループ校合同のテーマ別分科会（生活指導、特別支援、特別活動等）において、小・中がそれぞれの視点から児童・生徒理解に関する情報を共有し、9年間にわたった成長を見守る。
- (取組3) 「地域の子どもは地域で育てる」意識をし、地域社会と連携した社会貢献活動（CC大作戦）を行い、防災教育にも取り組ませ、地域の一員としての自覚を促していく。

ウ その他

- ①「由井中学校グループ」として「情報活用能力系統表」を活用した義務教育9年間を見通したICT活用に関する資質・能力の育成について、4校にて連携して取り組む。
- ②和太鼓・箏の体験を共生社会の実現等に向けて家庭と地域で連携する「由井第三小2020レガシー」として位置付け、日本の伝統文化の良さを体験し発信する活動を継続する。
- ③保幼小児童連携による保育士・教職員の意見交流、就学支援シートの活用を通して、幼児教育・保育と小学校教育の円滑な接続を図るためのスタートカリキュラムを充実させる。

3 授業日数及び授業時数の配当

(1) 年間授業日数配当表

月 学年	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
1	16	20	21	14	1	20	22	18	19	17	17	16	201
2	16	20	21	14	1	20	22	18	19	17	17	16	201
3	16	20	21	14	1	20	22	18	19	17	17	16	201
4	16	20	21	14	1	20	22	18	19	17	17	16	201
5	16	21	20	14	1	20	22	18	19	17	17	17	202
6	17	20	21	14	1	20	22	18	19	17	17	16	201
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・第6学年が入学式参列のため、4月の授業日数が1日増となる。 ・第1から4学年は卒業式に出席しないため、3月の授業日数が1日減となる。 ・第6学年は修了式に出席しないため、3月の授業日数が1日減となる。 ・第5学年は、移動教室のため5月31日(土)が授業日、6月2日(月)が振替休業日になるため、5月の授業日数が1日増、6月の授業日数が1日減となる。 ・夏季休業日は7月21日(月)から8月28日(木)までとする。 ・開校記念日5月15日(木)は授業日とする。 ・都民の日10月1日(水)は授業日とする。 												

(2) 各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動、自立活動、各教科等を合わせた指導の年間授業時数配当表

ア 各教科 (1単位時間は45分とする)

教科名		学年					
		1	2	3	4	5	6
各教科	国 語	0	0	0	0	0	0
	社 会			0	0	0	0
	算 数	0	0	0	0	0	0
	理 科			0	0	0	0
	生 活	0	0				
	音 楽	0	0	0	0	0	0
	図 画 工 作	0	0	0	0	0	0
	家 庭					0	0
	体 育	0	0	0	0	0	0
	外 国 語					0	0
知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科	内 容						
	生活	0	0	0	0	0	0
	国語	185	185	180	180	175	175
	算数	145	145	165	165	170	170
	音楽	70	70	70	70	70	70
	図画工作	70	70	70	70	70	70
体育	105	105	105	105	105	105	
小計		575	575	590	590	590	590

イ 特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動、自立活動

領域	内容	学年	1	2	3	4	5	6
特別の教科 道徳	善悪の判断 正直・誠実 親切・思いやり 礼儀 規則の尊重 生命の尊さ 等		34	35	35	35	35	35
外国語活動	外国語音声や基本的表現に慣れる コミュニケーションを図る (挨拶 自己紹介等)				15	15	20	20
総合的な学習の時間	野菜や花の栽培 地域の探検 伝統芸能習得活動(6年交流)等				40 (10)	50 (10)	50 (10)	50 (10)
特別活動	学級のきまりや生活上の問題の話し合い 係り活動 学校図書館の利用 等		40	40	40	40	40	40
自立活動	手・指の巧緻性 健康の保持 コミュニケーション能力の育成 (各教科等を合わせた指導で行う)		0	0	0	0	0	0
小 計			74	75	130	140	145	145

ウ 各教科等を合わせた指導

指導の形態	内容	学年	1	2	3	4	5	6
日常生活の指導	基本的な生活習慣の確立 集団生活のきまり等		70	70	70	70	70	70
遊びの指導			0	0				
生活単元学習	校外学習 都道府県の学習 身近な自然 昔遊びなどの伝承体験活動 季節的行事 お楽しみ会 簡単なルールのあるゲーム 英語活動 指先の器用性を向上させる活動 買い物学習 交流学習 調理学習 等		131	190	190	215	210	210
小 計			201	260	260	285	280	280

エ 年間総授業時数 (ア+イ+ウ)

学 年	1	2	3	4	5	6
年 間 総 授 業 時 数	850	910	980(10)	1015 (10)	1015 (10)	1015 (10)
備 考	<p>(ア) 1単位時間 1単位時間は45分とする</p> <p>(イ) 特別活動(児童会集会活動、クラブ活動、委員会活動) 月曜日に実施する委員会活動は 1単位時間45分間、クラブ活動は 1単位時間60分間(11回)で行う。</p> <p>(ウ) その他 自立活動は学校の教育活動全体を通して効果的に実施していく。</p> <p>(エ) 長期休業中に位置付ける学習内容 総合的な学習の時間の郷土学習(第3～6学年「野菜を育てよう」(10時間))を夏季休業期間中に位置付ける。</p>					